

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

横浜サステナビリティ研究センター有限責任事業組合

② 施設・事業所情報

名称：P'sスマイル保育園	種別：認可保育園
代表者氏名：松澤ひろみ	定員（利用人数）：54名（54名）
所在地：〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央1-1-1シアル鶴見6F	
TEL：045-511-5150	ホームページ： https://www.doronko.jp/facilities/pssmile/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2013年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人どろんこ会	
職員数	常勤職員 10名 非常勤職員 10名
専門職員	保育士 16名 栄養士 1名
	調理員 2名
	園事務 1名
施設・設備の概要	（居室数）2 （設備等） 保育室・子育て支援室・トイレ・調理室・園庭
	施設面積：239.71m ² （保育所使用部分）

③ 理念・基本方針

<子育て理念>

「にんげん力。育てます」

子どもたちが「にんげん力」を身につけるために必要なあそび、野外体験を提供実践し、“自分で考え、行動する思考”を育みます。

<子育て目標>

- ① センス・オブ・ワンダー：子どもが“畑仕事・稲刈り・ヤギや鶏の世話などの労働”や、“自然の中での体験”を通して、ものの性質や身近な事象・生命の尊さ・食材や食の循環に気づくことができるように、10よりも100の経験を与え、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り支援してゆきます。
- ② 人対人コミュニケーション：園内では「すれ違ったすべての人」と挨拶を交わすことを園の約束としています。銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育など地域交流を実践し、一人でも多くの人と挨拶を交わし、一つでも多くの仕事を目にする機会を用意し、“感じたこと・考えたこと”を言葉で、ジェスチャーで、表情で、描いて、作って、表現できる子どもを育成します。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

年齢が違う子同士、障害の有無関係なく、どの子もやってみたいこと・思い通りにならないこと、すべて実際に経験できるよう「異年齢保育」「インクルーシブ教育」を
--

実施し、0～5歳児が共に暮らし、頼りたい相手・遊びたい相手・遊びたい場所を子ども自らが選択し行動できるように保育を進めている。地域の様々な人・場所・機関と連携を図りながら、地域に開かれた保育所として商店街ツアー・老人ホームとの世代間交流、銭湯でお風呂の日、在宅子育て支援として園開放や地域の方と月1回決まった公園で同じ時間を共有する青空保育などを実施している。保護者とはアプリを使用し日々の保育の様子をタイムラインや連絡帳で配信、年に二回の保護者懇談会、個人面談は随時受け入れするなどしながら連携をしている。

また事業計画書の中でも特に力を入れ取り組んでいることを2点記載する。

- ① 歩く保育：「9時出発」を合言葉に散歩に出かけている。345歳児は三ッ池公園（往復 6,2 km）馬場せせらぎ緑道（往復 6,6 km）と行動範囲を広げ主体的に能動的に動くこと、仲間と声を掛け合い大変なことも少し忍耐して乗り越える術を身に付け始めている。
- ② 「生活を歌いっばいに」を目標に毎日多彩な歌を取り入れ、リズム体操「さくらさくらんぼ体操」を行っている。ワンルームの特徴を活かして1歳児から5歳児全員で参加。1、2歳児は幼児の姿を模倣し、表現する力を伸ばしている。「生活を大事に」を掲げて、丁寧なお世話を毎日積み上げている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年7月3日（契約日） ～ 2021年2月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審期）	1回（2015年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1. 保育の質の向上に向けた取組について

法人が各種マニュアルを整備し、毎年、職員の意見を反映して改訂している。また、法人が導入した「コンピテンシー」について、職員は自己採点を毎月実施し、課題の発見と自己成長に繋げている。さらに、目標管理シートやスキルアップシートの作成、上司との面談、人事考課により、職員のスキルアップを目指すPDCAの仕組みを構築している。

また、施設独自で、子どもの衝動的、攻撃的行動をやわらげ、社会への適応力を高めることを目的とした「セカンドステップ」というソーシャルスキルの研修や、子どもたちの活動の様子をエピソードを交えて記録する「ドキュメンテーション」の研修を実施している。職員はこれらの取組を保育の実践に生かし、子どもの感情の変化や思いを保護者に「見える化」して発信している。また、利用者アンケートの結果を職員が分析検討し、寄せられた保護者の要望・疑問等への対応策や回答をカラーの模造紙に記載して玄関に掲示するなど、保育の質の改善の改善と保護者との信頼関係構築に努めている。

2. ICT（情報通信技術）の活用について

「入園のしおり」「園だより」などの印刷物配布のほか、日英中3カ国語に対応したWebページや専用アプリ、SNS(Twitter、Facebook、Instagram)を活用して充実した情報提供を行っている。イントラネット、専用アプリ、保育予約システム等の整備などによるICT（情報通信技術）の活用を推進している。

3. 保育、養護と教育の一体的展開について

保育実践のテーマとして「にんげん力」を育てることに焦点を当て「6つの力」を培うために子どもに最大限の体験と経験を用意するよう配慮している。子どもの活動

は成長の少し上をチャレンジするような内容とし、例えば少し工夫すれば習得しやすい個人の発達段階を保育者が見極めて、箸の使用やパンツへの移行を取り入れている。

園庭の畑で季節に応じて植物を栽培し、カメを飼育するなど、自ら直接の体験として自然に触れる機会を提供している。

◇改善を求められる点

1. 保護者が相談や意見を述べやすい環境の整備について

玄関にご意見箱を設置しているが現状での投函はゼロ件であるため、記入用紙・筆記具の配置やポップを掲示するなど、保護者が意見を投函しやすいよう工夫するとよい。

2. 新型コロナウイルスの対応について

今年度は新型コロナウイルスの影響により、事業計画で予定していた行事やイベントが一部中止となり、代替策を講じているものの地域や保護者との交流の機会が減少しているため、コロナ禍終息後、さらなる積極的な活動の展開を期待する。

※評価手法：状況調査、自己評価調査、利用者調査、訪問調査〈書面調査（根拠書類の日付はすべて確認済）〉、ヒアリング、現場視察〉

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価受審を受けて

- ① 日常の保育を項目別に多角的に評価・明文化してもらうことで、社会的に認められる活動、貢献している活動を具体的にフィードバックして頂いた。このことは今後も力を入れるべきところに焦点をあてて、保育の質を高めていく指針となるだろう。特に法人・どろんこ会が目指す『にんげん力。育てます』という「子育て理念」をP'sスマイル保育園の職員集団が保育で体現できている、と評価されたことは何よりも嬉しい。今後も社会情勢の変化や子どもの育ちに必要な情報にアンテナを張り、職員一丸となって研鑽していきたい。
- ② 利用者アンケートからはお子様の成長発達を促し保護者様と喜びあえる関係であることを示され、感謝の思いを新たにされた。示されたご意見を貴重な情報として活かし、日々の保育を積み上げたい。子どもたちののびのびとした一日一日の姿が保護者様の何よりの望みであることを心に留めて、子どもたちの笑い声が軽やかに響くP'sスマイル保育園であり続けたい。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり